

入選

助けることの大切さ ―私と母と奥さん―

山口県 室積中学校 一年

岡村 優衣

わたしはそのとき、心の奥がじんわりと温かくなるのを感じました。

家族といっしょにショッピングモールに買い物に行ったときのことで。途中でトイレに行きたくなり、私は母といっしょにトイレに行きました。私がトイレを終えて、手を洗いに行こうとしたときです。先にトイレを済ませていた母が、女子トイレの入り口付近で、中を何度ものぞいている夫婦に目をとめました。

気になったので声をかけると、奥さんに視覚障がいがある様子でした。旦那さんによると、奥さんがトイレに行きたいが女子トイレのため、中に入り案内することができないとのことでした。

私と母は、そんな旦那さんの話を聞いて、代わりに案内しようと思い、

「奥さんを案内します。」と、言いました。

母が、奥さんに声をかけながら誘導し始めたので、私も奥さんの手を握ってついていき、案内をしました。トイレの個室の中まで案内したら、便器やトイレトペーパーのある位置、流しボタンのある場所を教えました。

そうして一度手洗い場まで戻り、用を足すための一連の流れを説明し終わると、

「ありがとうございます。もう大丈夫です。」と、お礼を言ってくれました。

私はそのとき、とても嬉しくなって案内してよかったな、と思いました。その後、私と母はトイレの外にある休憩所の椅子で、

「あの奥さん、ちゃんとトイレできたかな。」

と、話していました。しばらくすると、先ほど案内した奥さんが、旦那さんとごいっしょにトイレの方から出てくるのが見えました。

二人ともニコニコして出てきたので、ちゃんとできたんだな、と安心しました。そして、心の奥がじんわりと温かくなるのを感じました。

私はこのことを機に、人を助けることはやっぱり大切だ、ということがわかりました。それに、「ありがとうございます」などの感謝の言葉を言われると、気持ちも心も明るくなります。

『情けは人のためならず』

ということわざがあるように、巡り巡って自分に返ってきて、心がとても豊かになりました。

今まで私は、少し引っ込み思案な性格もあり、知らない人に自分から声をかけることがなかなかできませんでした。今回は母がいっしょにいてくれて、先に声をかけてくれたことで勇気が持て、自分も手伝うことができました。

そのおかげで、こんなにも心が豊かになり、温かい気持ちを知ることができました。

そしてもっともっと、自分に勇気が持てるよう、たくさんの小さな親切をつなげていきたいです。